

～小坂小・中学校からのお知らせ～

●小坂高校と合同の強歩大会

さわやかな秋晴れの天気のもと、小坂中学校と小坂高校合同の強歩大会が開催されました。今年は全校生徒の参加となり、「距離に挑戦」「完走・完歩に挑戦」など、それぞれの走力に合わせてゴールを目指して走りました。開催にあたり、保護者の皆さまから、関門や給水所、監察など、たくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。



●学習発表会・坂中祭

小学校の学習発表会と中学校の坂中祭が開催され、スクールバンド部や吹奏楽部の演奏、劇、歌などの発表をしました。今年は小学校の太鼓、手話、ダンスなどクラブ活動の様子も発表しました。また、中学校では合唱コンクールを同日開催にするなど、これまでよりもさらに充実した内容になりました。

〈小6劇「グスコブドリの伝記」〉



お問い合わせ先 小坂小学校 (TEL29-2422) 小坂中学校 (TEL29-3232)

ケンさんの Volume 20 国際コーナー



アメリカ：独立

1775年4月19日の朝、マサチューセッツ湾植民地のレキシントン町の広場に、マサチューセッツ植民地民兵75人とイギリス陸軍400人が銃を構え対立しました。陸軍の指揮官は刀を振り回し民兵に解散の命令を出しました。民兵がその命令に従おうとした瞬間どこから一発の銃声が鳴って、両軍は相手に攻撃されたと思って撃ち返しました。これがアメリカの独立戦争の始まりでした。アメリカの子供は誰でもこの話を知っていますが、実際どうやってその状況にたどり着いたのでしょうか？

1607年から1732年に渡ってアメリカ大陸の東海岸に13の植民地が設立されました。その入植者は自身をイギリス臣民と認識していましたが、1755年に7年間のフレンチ・インディアン戦争という北米イギリス領アメリカ植民地対フランス植民地の戦争が始まりました。アメリカ植民地がイギリスから軍隊や軍需品の支援を求めた結果、勝者はアメリカ植民地でしたが戦争でイギリスは大金を使いました。そのお金を取り戻す

ため、イギリスの議会はいくつかの法で植民地から税を徴収しました。イギリス議会に植民地の代表者がいなかったため、「代表なくして課税なし」というスローガンで、入植者が課税を反対しました。さらに、インディアン(先住民)との戦争を避けるため、イギリス議会は西への開拓を禁じました。この諸法で13植民地とイギリスの関係が悪化して、1773年にボストン茶会事件という、イギリスのお茶が大量投棄された事件がありました。それに対して、イギリス議会在植民地を賞罰するための「強制諸法」(アメリカでは「耐え難い諸法」と呼ばれる法律を制定しました。その諸法で、ボストン湾を閉鎖したりマサチューセッツ植民地の政府をイギリス政府の支配下に置いたりしました。そのため、13植民地とイギリスの関係がさらに悪化して、レキシントンの戦いにたどり着きました。

最終的に、13植民地が独立戦争に勝ってアメリカ合衆国として独立しました。イギリス政府が禁じた西への開拓が加速して、インディアンが追い出され、全滅しました。革命で独立を手に入れたアメリカは、憲法に国民が武器を保有し携帯する権利を書きました。さらに、自国の歴史を参考にして、世界中の国に何回も革命を起こそうとしました。アメリカの独立戦争は国を作っただけでなく、アメリカのアイデンティティに大きく影響を与えた出来事でした。「不正に抵抗する。権威に逆らう。自由をつかむ。」多くのアメリカ人それぞれが持つクオリティが、独立から生じたと思われるでしょう。

